大学生が水道の将来考える

横浜ウォーター　常陸太田市、茨城大と連携

将来あるべき水道の姿などのメッセージを考えたセミナー

横浜ウォーターは、茨城県常陸太田市、茨城大学と連携して、藤田昌史・茨城大学工学部都市システム工学科教授の講義「都市システム工学特別講義」においてセミナーを行った。同社が国土交通省から受託した「水道事業の啓発に向けた調査検討等及びセミナー企画運営業務」において、10～11月にかけてセミナーを3回開催、未来を担う若年層に水道の歴史や現状について理解を深めてもらうとともに、将来あるべき水道の姿などを議論した。

約70人の学生が参加したセミナー前半はインプットの時間に充て、水道事業の基本的事項や経営について学ぶ機会とした。第1回は横浜ウォーターが水道に関する基本的内容や歴史についての講義を行った。第2回は常陸太田市の水道施設を見学したほか、経営に関する知識を深めてもらうために茨城県中小企業診断士協会の協力を得て民間企業会計と公営企業会計に関する講義を行った。

セミナー後半はアウトプットの場とした。第3回は、約10人を1班として7班に分かれ、これまでの学習を基に「将来あるべき水道の姿」や「その実現のための方策」「これらの活動をどの様に全国に広めていくか」をテーマとしたメッセージを考え、発表した。ある班は、将来あるべき水道の姿は「いつまでも安心安全な水～強靭な水道管とともに～」、その実現のための方策は「耐用年数が長くなるような材料の開発により老朽化を防ぎ、AIやドローンなどを用いた監視システムの構築により、効率的に管理運営していく」、どう広めていくかは「学校・企業・水道事業体で連携して授業を開催していく」と発表した。第3回のセミナーには、ミス日本「水の天使」の高坂実優さんも参加、各班の発表を聞き、「安全安心や災害に強いといった同じゴールなのに様々な方法にフォーカスしており、大変勉強になった。これからも水道について一緒に考えてもらえたら」などと感想を話した。

なお、若年層の水道に対するより一層の理解の促進に向け、今回の活動の成果は、国交省を通じて公開され国民に向けた広報活動に活用される予定となっている。

久保田裕史・横浜ウォータープロジェクト統括部長の話…短期間で水道料金の負担を理解してもらうため、茨城県中小企業診断士協会の協力を得て民間企業と公営企業の違いを知る講義を組みました。私自身も中小企業診断士ですが産官学に加え地域の士業も参加することで、より厚みの増した学習の機会になると実感しました。今後も地域の協力を得ながらセミナーを展開していきたいと思います。

潮田友之・常陸太田市上下水道部上下水道総務課課長補佐兼総務企画係長の話…大学生の皆さんが、水道に関する知識を吸収し、柔軟な発想力で課題解決に向けた提案プロセスに取り組む姿勢を目の当たりにして、改めて本事業への参画の意義を感じました。このセミナーを通して、将来の水道事業を担う若い技術者が一人でも多く出てくれることを期待しています。

藤田教授の話…参加学生の多くは上下水道工学を修得していましたが、本セミナーでは企業会計等の新たな知識や施設見学での体験をもとにして、水道事業の今後を主体的に考える機会をいただきました。将来、水道等の社会インフラに携わる仕事に就く学生にとって、本セミナーは非常に有意義でした。

水道産業新聞
2025年（令和7年）12月4日（木曜日）